

平成29年度 学校評価票

北海道北見緑陵高等学校

平成29年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着と、その活用能力の育成に努める
- (2) 積極的に進路意識を高め、豊かな自己実現を図る意欲と能力の向上に努める
- (3) 自然や他者との共生意識や、生命を尊重する意思と態度を養うとともに、自己指導能力の育成に努める
- (4) 教職員の経営参画意識の高揚と、学校課題と解決をとともに共有し行動する

【内部評価】本校教職員による評価については、各々A～Dで示した。
 A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である
 D：不十分である

【学校関係者評価】
 A：適切
 B：ほぼ適切
 C：やや不適切
 D：不適切

| 評価対象 | 評価項目 | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | |
|--------------|---|------|--------|---|----------|--------------|
| | | 達成状況 | 取組の適切さ | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善に向けた取組の適切さ |
| 教育目標 経営方針 | 1 本校の教育目標は、生徒や保護者・地域の方々の実態を踏まえたものか | B | B | 1 学校評価アンケートの適切な活用と情報発信・収集の充実 | A | A |
| | 2 学校の教育目標や経営方針を具現化するという意識のもと日常の教育活動が行われているか | B | B | 2 学校課題の共有と協働による教育活動の推進 | | |
| | 3 生徒・保護者・地域の期待に応え、夢を叶える事ができる活力と魅力にあふれる学校であるか | B | B | 3 学校評価の結果を適切に活用した教育活動の工夫・改善 | | |
| | 4 伝統を継承しつつ改革を目指す、地域に開かれた学校であるか | B | B | 4 授業・教育活動の一層の公開 特色ある学校づくりの推進 | | |
| ご意見・ご要望 | ・人気のある高校となってきた感じが伝わっています。教職員も自信を持ってよいのではないかと。 | | | | | |
| 学習指導 | 5 フィールドの特色を明確にする教育課程の工夫や見直しを検討したか | B | C | 5 各フィールドの特色を明確にする教育課程の見直しと検討 | B | B |
| | 6 家庭学習が授業理解に結びつき、学習の習慣づけが形成されたか | C | C | 6 学習習慣づけの具体的な方策の検討・実施 | | |
| | 7 授業公開の実施と興味関心を持たせる指導が授業で実施されたか | B | B | 7 授業公開週間の継続。内容の充実を図る教務部主導による授業改善研修の充実 | | |
| | 8 授業評価の結果に関する分析と校内研修の実施が適切か | C | C | 8 適切な分析結果の提供と授業改善に向けた組織的な取組の充実 | | |
| | 9 学ぶ意義を理解させ、生徒の意欲を喚起させることができたか | B | B | 9 「学ぶ意義」を理解させる取組の具体的な方策の検討と組織的な取組の充実 | | |
| ご意見・ご要望 | 授業公開は、開かれた学校づくりのためには欠かせないものだと思う。また、社会に役立つ人材育成のためにも良い授業づくりを教職員間で研究して生徒の学力向上をめざしてほしい。 | | | | | |
| 生徒指導 | 10 企画・立案段階における生徒の主体的参加が行われていたか | C | B | 10 生徒会行事はもちろん生徒自身の係る課題についての生徒会・クラス討議の充実 | A | A |
| | 11 教育相談を必要とする生徒への対応方法を検討・確立できたか | B | B | 11 教育相談・特別支援委員会の一層の充実と全職員による情報の共有化の推進 | | |
| | 12 生徒個々が自分の役割を果たし、相互に協力して活動する過程で好ましい人間関係が築かれたか | B | B | 12 生徒理解ツール（アセス・ほっと）の有効活用と良好な対人関係構築に向けた支援の充実 | | |
| | 13 望ましい部活動の充実・発展に向けて工夫や改善がされたか | B | B | 13 生徒減に伴う効果的な部活動の在り方の検討 | | |
| ご意見・ご要望 | 挨拶がしっかりとでき、すがすがしい生徒が多いと感じる。社会に貢献できる人材の育成のためにも積極的な生徒指導に心がけてほしい。また、部活動の活躍をこれからも楽しみにしている。 | | | | | |
| 進路指導 | 14 インターンシップを活用し、キャリア教育の充実を図れたか | B | B | 14 インターンシップ等の体験的活動の推進と3年間を見通したキャリア教育の充実 | A | A |
| | 15 進路調査、進路相談が卒業後の将来を展望する支援・指導になっていたか | B | B | 15 三者面談の実施と家庭との連携の強化 | | |
| | 16 卒業後の進路決定に関して、保護者との連携が十分行われていたか | B | B | 16 1、2年生向け保護者進路説明会の充実と継続的な情報提供の推進 | | |
| | 17 進学推薦や就職生徒への面接指導体制を学年団と協議し改善できたか | B | B | 17 全教職員による面接指導の実施と指導法の改善・工夫 | | |
| | 18 講習受講者の志望校、難関校の合格状況等の情報を職員で共有化したか | B | B | 18 情報の共有化の工夫・改善 | | |
| ご意見・ご要望 | 生徒数は以前に比べ減少したが、進路の実績を見ると先生方の指導力の高さに敬服する。多様な進路希望校ではあるので進路指導が大変だと感じるが生徒の進路目標実現のためにより一層指導の強化を図ってほしい。 | | | | | |
| 健康安全指導 | 19 各種体育行事や部活動を通して、心身共に調和のとれた発達が図られたか | B | B | 19 体育的行事・部活動の活性化と日常的な健康管理の啓蒙 | A | A |
| | 20 防災訓練や性教育講話を通して生命尊重の意識を高めたか | B | B | 20 避難訓練の年間2回以上の実施と内容の工夫・改善 | | |
| | 21 支援を必要とする生徒情報を関係機関と共有し、早期の対応に努めたか | B | B | 21 特別支援に関する研修の継続と専門家・関係機関との連携の強化 | | |
| | 22 保健だより等の発行や連絡相談により、家庭や関係機関等との連携が十分行われていたか | B | B | 22 保健だよりによる啓蒙の推進と保護者とのより一層の連携の強化 | | |
| ご意見・ご要望 | 防災教育の充実が求められている。様々な危機管理が重要であるので、現行の体制の見直し等を丁寧に行ってほしい。 | | | | | |

| 評価分野 | 評価項目 | | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | |
|------------|--|--|------|--------|--|----------|--------------|
| | | | 達成状況 | 取組の適切さ | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善に向けた取組の適切さ |
| 信頼される学校づくり | 23 | HPで緊急連絡、中学生や卒業生への情報提供など適切な更新と発信をしたか | B | B | 23 複数の担当者によるHPの適切な更新と積極的な活用の推進 | A | A |
| | 24 | 地域や保護者の意見を傾聴し、要望や依頼に適切に対応したか | B | B | 24 傾聴と丁寧な対応の継続と保護者アンケートによる学校課題の把握 | | |
| | 25 | 地域社会や小中学校との連携や奉仕活動の機会が十分であったか | B | B | 25 ・クリーン活動の継続実施と工夫・改善 ・異校種交流の活性化の推進 | | |
| | 26 | 学校評価の結果を受け、教育活動改善への適切な活用がなされたか | B | B | 26 適切な学校評価項目の設定と学校評価の結果を生かす教育活動の工夫・改善 | | |
| | 27 | 支部懇談会の発展的な解消がされ、代替えとなる保護者との懇談の機会が各学年で設定されたか | B | B | 27 学年懇談会や面談機会の設定の充実による保護者との連携の強化 | | |
| ご意見・ご要望 | 地域から信頼される・地域の期待に応える学校づくりを今後も進めてほしい。 | | | | | | |
| 組織運営 | 28 | 教職員の意志が疎通し、風通しの良い職場となっていたか | B | B | 28 学校課題等の情報共有と教職員相互の意志疎通の強化と報告・連絡・相談の徹底 | B | A |
| | 29 | 4間口に相応しい、業務分担や学校運営がなされたか | B | B | 29 学校課題解決に向けた分掌業務の重点化と効率的で協働による業務の実施 | | |
| | 30 | 個人のアイデアを生かし、組織を通して仕事していたか | B | B | 30 学校課題の共有と協働による組織的な学校運営の推進 | | |
| | 31 | 職員会議は、発言しやすく創造的な意見調整の機能を果たしていたか | C | B | 31 前例踏襲によらない立案・実施と会議資料の事前配布 | | |
| | 32 | 学校課題、生徒情報、危機管理の情報を共有し、管理職からの適切な指導・助言が十分行われていたか | B | B | 32 正確な情報の把握に努め今後の教育の動向を踏まえた適切な指導・助言の実施とそれに向けた研修の実施 | | |
| ご意見・ご要望 | 学校の課題解決については、重点を絞った取組が必要である。組織や業務の見直しをするなど教職員の負担軽減をするとともに効率的で柔軟な組織運営に努めてほしい。 | | | | | | |
| 教職員の資質向上 | 33 | 授業評価の結果が活用され、分かる授業を生徒に提供できたか | B | B | 33 生徒による授業評価の分析・活用による適切な授業改善の実施 | A | A |
| | 34 | 長期休業中を利用して研修を努め、また適切な勤務をしたか | B | B | 34 教育のプロとしての自覚と絶えず研修に励む姿勢の更なる充実 | | |
| | 35 | 教育公務員としての自覚を持ち、不祥事を防ぐ意識を持ったか | B | B | 35 教育公務員としてのより一層の自覚と服務規律を遵守する意識の徹底 | | |
| | 36 | シラバスの活用や観点別評価の推進がなされたか | B | B | 36 効果的な活用や評価基準の作成に向けた研修の充実 | | |
| | 37 | 服務規律の保持に関する情報提供が適宜行われ、事故の未然防止に努めていたか | B | B | 37 服務違反事例の効果的な活用と教員相互による日常的な声かけ | | |
| ご意見・ご要望 | 学校力向上には教職員の資質向上が欠かせない。教育のプロとしての自覚と自信あふれる教育活動を展開するためにも研修の充実を図ってほしい。 | | | | | | |
| いじめの問題 | 38 | いじめの未然防止に向けて生徒を指導をしたか | B | B | 38 毎月の「いじめ確認の日」の有効活用と積極的（予防的）な生徒指導の充実 | A | A |
| | 39 | いじめの早期発見のために生徒の様子を日常的に観察し情報の共有を図ったか | B | B | 39 個人面談・教育相談の充実と日常的な生徒観察と情報共有の継続 | | |
| | 40 | いじめの発生に対して、学校全体で早期対応する体制が確立しているか | B | B | 40 いじめ防止対策委員会による組織的な取組の強化 | | |
| | 41 | 地域、保護者とともいじめの根絶に向けた取組をしているか | B | B | 41 保護者および関係機関との連携の強化 | | |
| ご意見・ご要望 | いじめは、今の学校においては重点課題の一つだと思う。いじめの未然防止のためには様々な取組が必要である。 | | | | | | |